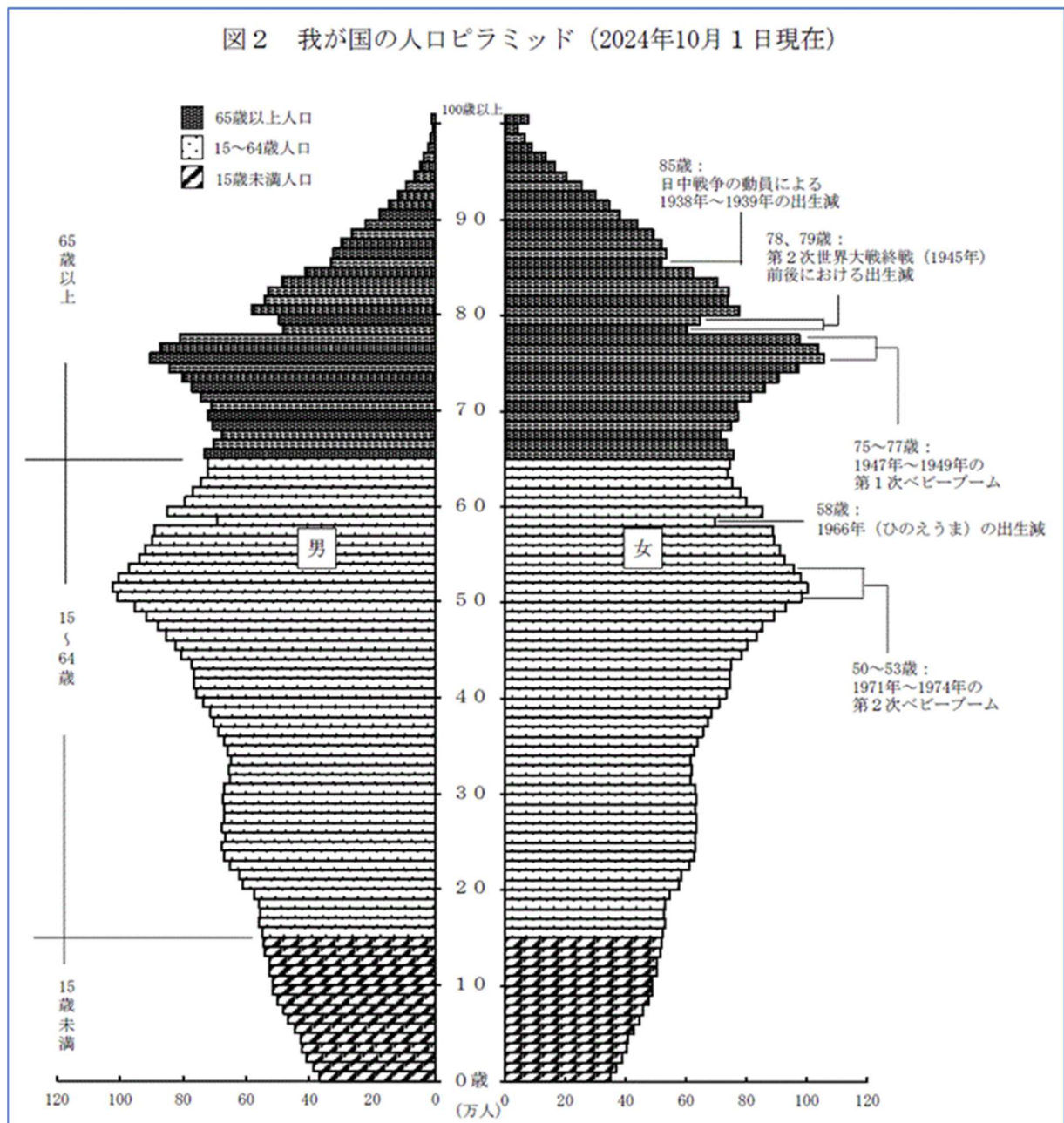


### 3. 解説：日本の人口構造と世代について

2025年4月4日、2024年10月1日現在の全国：年齢（各歳）、男女別人口、都道府県：年齢（5歳階級）、男女別人口別が発表された。そこに示された「わが国の人口ピラミッド」が以下の図である。「団塊の世代」がいよいよ後期高齢者層に移行した。「団塊ジュニア世代」も50歳を超えた。デジタル／SNS ネイティブと云われる「Z世代」も30歳に近づいてきている。

現在、75歳の方の平均余命は男12.13年、女15.74年であり、予想される寿命は男87.13歳、女90.74歳と見通され、平均寿命（0歳児の平均余命）よりも男で6.04年、女で3.60年、長寿となる。筆者の廻りに80歳を超えても元気な方が多いのもうなずける。



出典：人口推計（2024年（令和6年）10月1日現在）2025年4月14日公表

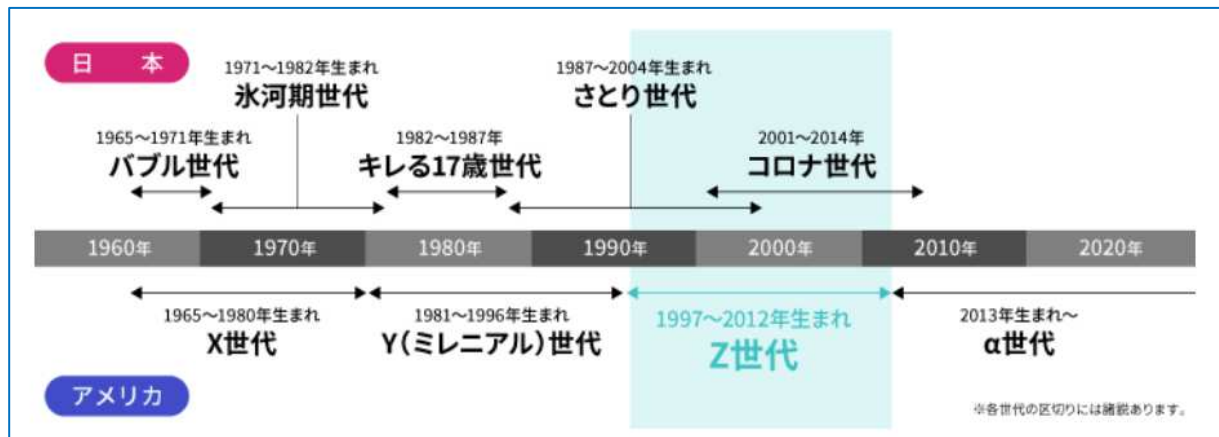
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2024np/index.htm>

人口規模（総人口）・構造（年齢別人口規模）・動態（自然増減・社会増減）は、社会の風潮、消費・生産、仕組み（制度設計）に大きな影響を与える。そうした時代を象徴的に表すのが「〇〇世代」という世代呼称であり、諸説あるが、包括的に整理すると以下の表ようになる。

| 呼称          | 生年（目安）                 | 主な特徴・背景                                                                                             |
|-------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大正世代        | 1912～1926 年            | 大正時代生まれ、昭和前期に学生時代                                                                                   |
| 昭和一桁世代      | 1926～1934 年            | 昭和初期生まれ、戦時下の少年期                                                                                     |
| 焼け跡世代       | 1935～1939 年            | 幼少期を戦中・戦後の混乱で過ごす                                                                                    |
| 戦中生まれ世代     | 1941～1946 年            | 太平洋戦争中生まれ、戦後復興                                                                                      |
| 全共闘世代       | 1941～1949 年<br>（大学進学者） | 学生運動・安保闘争の時期                                                                                        |
| 団塊の世代       | 1947～1949 年            | 第一次ベビーブーム<br>競争意識や仲間意識が強く、努力は報われるという考え方が強い。流行に敏感                                                    |
| しらけ世代       | 1950～1964 年            | 学生運動終息後、政治的無関心<br>政治や経済に対して無気力で無関心。個人主義的な考え方が強く、プライベートを大事にする人が多い                                    |
| ポスト団塊世代     | 1950～1955 年            | 団塊の世代直後、出生率高                                                                                        |
| 断層の世代       | 1951～1960 年            | 高度経済成長期育ち                                                                                           |
| 新人類世代       | 1955/1961～1967/1970 年  | 価値観多様化、サブカル台頭<br>自身の子供と友達のような関係になりやすい。消費意欲が高く、個人を尊重する傾向                                             |
| バブル世代       | 1965～1969 年            | バブル景気期に就職<br>好景気の時期に社会に出たため、消費活動に積極的。ブランド品を好む傾向がみられ、コミュニケーション能力が高い                                  |
| 団塊ジュニア世代    | 1971～1974 年            | 第二次ベビーブーム、人口多                                                                                       |
| ポスト団塊 Jr 世代 | 1975～1979 年            | 団塊ジュニア後、ネット文化担い手                                                                                    |
| ミニマムライフ世代   | 1980～1988 年            | バブル崩壊・就職氷河期経験                                                                                       |
| さとり世代       | 1985～1995/2004 年       | 消費・欲望が控えめな傾向                                                                                        |
| ゆとり世代       | 1987～2004 年            | ゆとり教育世代、デジタルネイティブ<br>ストレスに弱く、競争意識や上昇志向が低い。合理的な考え方をもち、自身の価値観を大切にする                                   |
| Z 世代        | 1995～2010 年頃           | デジタルネイティブ、SNS ネイティブ<br>タイパ（タイムパフォーマンス）重視の効率主義、強い仲間志向、仕事よりプライベート重視、多様性を重んじる。保守的で、人との和や既存の社会秩序を重んじる傾向 |
| α 世代        | 2010/2013 年頃 – 現在      | デジタルデバイスとともに成長<br>高度なデジタル環境で生育                                                                      |

注：AI 検索を元に加筆修正

世代呼称をアメリカとの比較でみたのが下図である。



出典：Z 世代の特徴とは | ミレニアル世代との違いや働き方や価値観をわかりやすく解説 最終更新 2022.11.30 d's JOURNAL [https://www.dodadsj.com/content/0329\\_generation-z/](https://www.dodadsj.com/content/0329_generation-z/)

こうした世代の中で、日本社会に大きな影響を及ぼした／及ぼしている世代の代表が「団塊の世代」（その子供の「団塊のジュニア世代」を含む）、「就職氷河期世代」、「Z 世代」である。

「団塊の世代」は、良いも悪いも戦後の経済成長時代の担い手であり、その圧倒的な数はライフステージが進むにつれ、社会の仕組み（教育制度、企業風土、消費行動、年金制度等）に大きな影響を及ぼした。そして、いまでも、「シルバー民主主義」といわれるほど政策への影響力が大きい。そして今、進行しているのが免許返納による生活移動困難を含めたモビリティ確保のあり方である。さらに今後、問題が顕在するのが、空屋問題である。日本の不動産（山林、農地、宅地等）の所有の大半がこの世代を中心とするシニア層であり、10 数年後頃から大量の相続が発生し、大きな社会問題となろう。死してなお社会に影響を残すということである。

「就職氷河期世代」は、1990 年代初頭のバブル経済の崩壊により、日本経済が急激に縮み、2000 年代にかけて（「失われた 10 年」）、新卒採用が厳しくなったことが背景にある。このときに正社員と採用されず、望まない非正規雇用（アルバイト、契約社員など）が増加する。日本の新卒重視の採用慣行が、この時の非正規雇用状態を継続させることになり、社会的格差を助起している。安定した収入が見込めない若者が結婚できない、結婚しても子供を産めない状況を招き、現在に至る少子化の原因となっている。現在の社会的孤立・孤独問題にもつながっている。社会的格差を生み出し固定化させている「非正規雇用の仕組み」の是正が急がれる。

「Z 世代」はアメリカ的表現で、分かりやすい日本語的表現としては「デジタル世代」であろうか。スマートフォンや SNS の普及期に生まれ育った Z 世代は、物心がつくころにはモバイル端末に触れ、SNS を通じて交流することが当たり前であり、その発想、思考、行動等はデジタルありきなので、従来の世代とは明確に異なる。当然、働き方、暮らし方が異なるので、今後、社会システムがそうした自律した「個」を前提としたものによって変わって行かざるを得ない。

補：本解説の詳細&参考資料等は、<https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/> に掲載